

## 研究論文

# ウェルビーイングの視点からの福井県の地域づくりの課題と可能性 —— 福井県県民アンケートの調査結果からの考察 ——

A Study on Challenges and Possibilities for Community Development of Fukui Prefecture  
from the Viewpoint of Well-being  
— Based on the Questionnaire Survey of Fukui Prefecture —

高野 翔\*

- I. 研究の背景と目的
- II. 先行研究からの問題意識と本稿の位置づけ
- III. ウェルビーイング調査の分析枠組みの新規設定
- IV. 福井県のウェルビーイング調査の結果
- V. 考察 —課題と可能性—

本稿は、福井県の県民アンケートによる主観的ウェルビーイングの調査を通じ、ウェルビーイング（主観的幸福感）の視点から福井県の地域づくりの課題と可能性を考察するものである。

福井県は、一般社団法人日本総合研究所が発表する全47都道府県幸福度ランキングにおいて、5回連続で総合1位と高い評価を得ている。しかしながら、全47都道府県幸福度ランキングは各種客観指標による客観的幸福度を数値化したものであり、県民一人ひとりの主観的なウェルビーイングを考慮したものではない。ついては、本稿にて、客観的幸福度を対象とする全47都道府県幸福度ランキングの結果と主観的幸福感を対象とする今回の調査結果とを比較し、ウェルビーイングの観点からの福井県の課題と可能性を明らかにすることに注目した。

調査分析の結果、全47都道府県幸福度ランキングでは、「仕事」分野は6回連続で全国1位と安定した雇用状況が評価され課題点は見えていなかったが、ウェルビーイングの観点からは、“魅力的な職場”であるかや“チャレンジできる環境”であるかなどの職場環境の質的な状況に対して必ずしも満足感が高くない現状が分かり、改善に向けての着眼点を得ることができた。

また「文化」分野では、客観指標に基づくランキングが低く、主観的評価でも充足度や期待度、主観的ウェルビーイングとの相関関係も相対的に低い結果となり、客観と主観の両面において福井県の伸びしろとしての課題であることが確認された。

客観的幸福度と主観的幸福感に関する調査結果を相互比較することで、これまでに把握できなかった課題の抽出と更なる課題の深掘りが可能となったと考える。

**キーワード：**主観的ウェルビーイング、幸福度ランキング、住民の福祉、福井県

---

\* 福井県立大学地域経済研究所

## I. 研究の背景と目的

福井県は、客観指標による客観的幸福度で幸福度日本一であると言われる。しかし、一人ひとりの主観的幸福感を表す主観的ウェルビーイング (Subjective Well-being) の観点から人々の暮らしを見つめた場合、見過ごされている課題はないだろうか？この問いかけから本稿をはじめたい。

福井県は、一般社団法人日本総合研究所が二年に一度発表する全47都道府県幸福度ランキングにおいて、5回連続 (2014年版, 2016年版, 2018年版, 2020年版, 2022年版) で総合1位となっている。このことが幸福度日本一と呼ばれる根拠となり、「幸福日本一ふくい」を広報する事業も行ってきている。

しかしながら、全47都道府県幸福度ランキングの調査結果は、各種客観指標による客観的幸福度を統計データから数値化したものであり、県民一人ひとりの主観的な幸福感、すなわち主観的ウェルビーイングを県民に尋ね反映したものではないことに留意が必要である。

世界の幸福度に関する潮流を捉えると、人々の幸福・幸せへのアプローチのメインストリームは、主観的ウェルビーイングの測定にある。昨今、様々な国際機関・国・地域にてその実践が見られる。

例えば、国連の The Sustainable Development Solutions Network は、世界140ヶ国以上を対象にし、人々の主観的ウェルビーイングを測定。その結果をもとに世界幸福度報告書を2012年より発刊し、主観的ウェルビーイングの公共政策への活用を後押ししてきている。また、OECDでは、新しい幸福度指標

として Better Life Index を作成。2013年には主観的ウェルビーイング測定に関するガイドライン (OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being) も策定している。国レベルとしては、ブータン王国のGNH (Gross National Happiness) 政策が有名であり、主観的ウェルビーイングをブータン全土で行われるGNH調査にて測定し、その調査結果を公共政策に活用している。近年では、ニュージーランド、アイスランド、スコットランドなどウェルビーイングを国家運営の中心概念として据える国々が増える傾向にある。

また、日本の公共政策の現場においても、2021年に、「経済財政運営と改革の基本方針2021 (通称、骨太の方針2021)」にて「政府の各種の基本計画等について、Well-beingに関するKPIを設定する」、また、「成長戦略実行計画案」にて「国民がWell-beingを実感できる社会の実現」と、ウェルビーイングというキーワードが政府の重要方針に記載され、ウェルビーイングの視点を重要視する動きが高まっている。

このように人々の幸せや地域の豊かさの状況を個々人の主観的ウェルビーイングの測定を通じ見える化し、その分析結果を公共政策に活用していくことが求められており、本稿では、福井県民の主観的ウェルビーイングを新規に測定することを通じて、これまでの客観指標による客観的幸福度では測定・把握できていなかった福井の地域づくりの課題と可能性を明らかにし考察することを目的とする。

## II. 先行研究からの問題意識と本稿の位置づけ

### 1. 先行研究としての全47都道府県幸福度ランキング

全47都道府県幸福度ランキングは2012年から開始され、地域社会の幸福の基盤を客観的に把握することを目的とし、各都道府県が有する統計データをもとにし調査結果の公表をおこなっている。

総合ランキングは、人々の幸福感を支える生活・社会基盤の全体に関係する基本指標5指標と、人々の幸福感を具体的に評価する尺度として考えられる5分野10領域の指標を、相対化し得られた得点データを統合することにより算出されるとされる（寺島ら2012）。

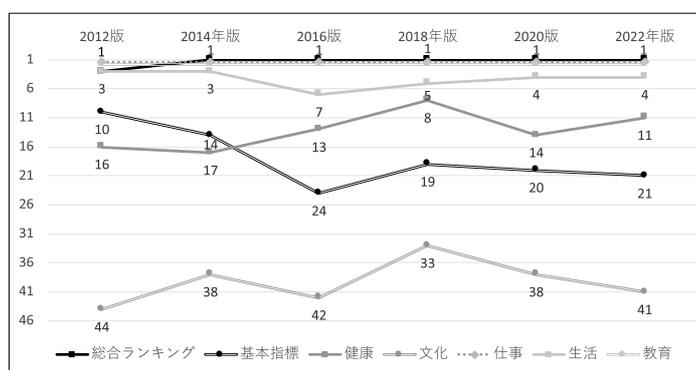
基本指標は、人口増加率、一人あたり県民所得、選挙投票率（国政選挙）、食料自給率（カロリーベース）、財政健全度の5つ。5分野10領域とは、「健康（医療・福祉、運動・体力）」「文化（余暇・娯楽、国際）」「仕事（雇用、企業）」「生

活（個人（家族）、地域）」「教育（学校、社会）」となる。

福井県のこれまでの総合ランキングを整理すると（図表1）、2012年版は3位、それ以降は、2014年版、2016年版、2018年版、2020年版、2022年版にて全国一位となっている。また、分野別のランキングを見ると、「仕事」と「教育」分野は6回連続で全国一位となり、特筆される結果となっている。方や、「文化」分野に関しては、30～40位代を推移しており、客観指数からは課題として捉えられる結果となっている。

寺島ら（2020）は、福井県が客観的幸福度で日本一である要因に関して、「仕事」と「教育」の分野の貢献が大きいとし、「仕事」においては、若者や女性を含めた雇用が非常に安定していること、「教育」においては、子どもが健全に成長できる教育環境が整っていることを挙げている。また、「文化」に関しては、文化分野の指標となる「文化活動等NPO認証数」と「外国人宿泊者数」などに改善が必要であり、地域資源の一層の磨き上

図表1 福井県の全47都道府県幸福度ランキングの推移



	2012年版	2014年版	2016年版	2018年版	2020年版	2022年版
総合ランキング	3	1	1	1	1	1
基本指標	10	14	24	19	20	21
健康	16	17	13	8	14	11
文化	44	38	42	33	38	41
仕事	1	1	1	1	1	1
生活	3	3	7	5	4	4
教育	1	1	1	1	1	1

げの必要性に言及している。

このように全47都道府県幸福度ランキングから分析される福井県の客観的幸福度は極めて高い評価を得られていることが分かる。しかしながら、全47都道府県幸福度ランキングでは、人々が自身の幸せの度合いを自己評価し回答する主観的ウェルビーイングの測定を行ってはおらず、総合ランキング等の調査結果には主観的ウェルビーイングの観点は考慮されていない。各都道府県が有する統計データの解析を通じた生活・社会基盤となる客観的幸福度も大事であるが、人々の幸せを考える上で、主観的な幸福実感も同時に重要であり、全47都道府県幸福度ランキングからはその視点からの福井県の地域づくりの課題や特徴を得ることはできない。

また、全47都道府県幸福度ランキングでは「日本総研型アプローチ」は対比可能な客観的な指標を抽出し、地域に生きる人々の幸福を実現するための基本要素を踏み固めることに重きを置いたことから始まった。」と調査の姿勢を明確にしつつ、初回の2012年版当時から、幸福感を支える主観的な要因について測定・分析していないことは課題であると述べている（寺島ら2012）。また、2020年度版では幸福度ランキングの進化として「自らの行動による幸福実感」をメッセージに掲げ、客観的指標だけでは捉えることのできない、主観的なウェルビーイングの重要性にも言及していることから、全47都道府県幸福度ランキングによる客観的幸福度とともに、主観的幸福感を表す主観的ウェルビーイングの測定・把握は新たに求められる状況にあると考えられる。

## 2. 主観的ウェルビーイングへの潮流

“ウェルビーイング”とは、人の幸福、健康、福祉を広範に含有する概念であり、コロナ禍も経て、注目度が益々高まっている。この概念が世界に認知され広がった原点の1つとして、WHOが1940年代に「健康とは、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態」であると定義したことが挙げられる。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にある実感できる幸せとして、哲学、心理学、経済学、医学、社会学をはじめとする様々な学問分野において研究活動が盛んに行われている。

ウェルビーイング研究の大家であったDiener（1984）は、個々人の価値観を尊重し主観的な視点を重視してウェルビーイングや幸せにアプローチする研究を、主観的ウェルビーイング（Subjective Well-being: SWB）の研究と名付け、ウェルビーイングを社会科学のフィールドで測定し、科学的根拠をもとに議論できる環境づくりに貢献した。また、大石（2009）は、主観的ウェルビーイングの研究について「つまり、穏やかな日々の生活を理想に掲げる人は、どれぐらい自分が穏やかな生活を送れているかで人生の満足度の判断を下してもらえばよいし、逆に変化に富んだエキサイティングな生活を送りたいと思っている人には、どれぐらい自分がエキサイティングな生活を送っているかで人生の満足度を判断してもらえばよい。SWBのアプローチからすると判断基準自体は個人差があつてよいし、何でも構わない。とにかく、自分自身の基準からしてどれぐらい自分の人生がうまくいっているかを判断してもらえば、それ

で貴重なデータとなりうるのである。」と述べ、主観的ウェルビーイングの特徴を述べている。

鈴木ら（2016）は、客観的指標のみを基にした日本の客観的幸福度は「客観的幸福度は算出の基礎となる経済社会指標の選定基準に依存することから、地域住民の主観的幸福度を反映しているかどうか疑問がある」と指摘し、また、森田（2013）は、幸福度指標を策定する体制側の指標選定の恣意性を免れることができないと問題点を挙げている。客観指標による幸福度の外部評価は、人々の主観的な幸福感が反映されないばかりでなく、VUCAと呼ばれる予測困難な変化の大きな時代において、指標策定側の策定当時の価値基準に基づいた標準的且つ画一的な幸福像を提示する評価体系となってしまう可能性を有していると考えられる。

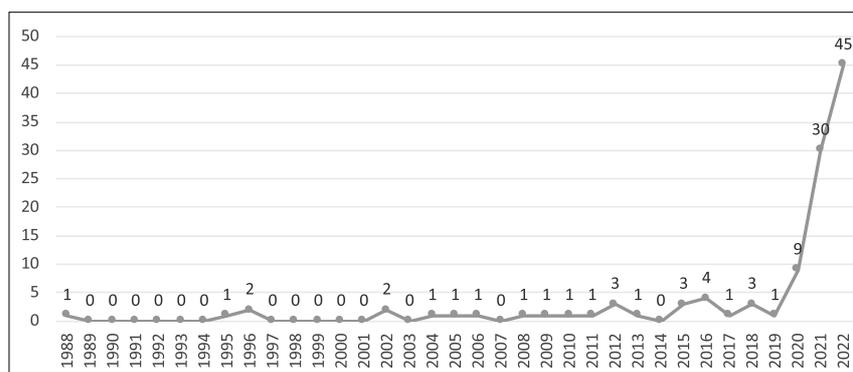
そのような中、人々の主観的ウェルビーイングも公共政策に活用していこうとする動きが、荒川区民総幸福度（Gross Arakawa Happiness）を標榜する荒川区、ウェルビーイングを総合計画の中心概念に据える岩手県、ウェルビーイングを成長戦略の中心概念に据える富山県など、国内自治体においても活用の拡がりを見せている。

また、福井県においても、民間ベースの調査研究として、“全47都道府県幸福度ランキングは全国一位であっても主観的な幸福実感を伴わないのはなぜか？”というリサーチクエッションをもとに、福井新聞及び京都大学と日立製作所の共同研究部門である日立未来課題探索共同研究部門が「未来の幸せアクションリサーチ」という協働プロジェクトを通じて、県民の声から県民の幸福実感を高めるアクションを探る取り組みが行われている（細川ら2020）。

議会質問の数からも日本国内の自治体の「ウェルビーイング」への関心やニーズの推移を把握することができる。地方議会議事録横断検索（<https://chiholog.net/chiholog>）を用いて、「ウェルビーイング」の単語が含まれる議事録件数を調べたところ、ウェルビーイングという単語を事業体や企画の名称として使用しているものを除き、総計113件が見つかった。2019年以前は0~4件と限定的であったが、2020年9件、2021年30件、2022年45件と増加傾向が顕著であることがわかる（図表2）。

2009年の川口市議会の「福祉では、ウェルフェアからウェルビーイングへの転換が図られ、最低限の保障から個人の尊重、自己実

図表2 全都道府県市区町村議会における「ウェルビーイング」の議会質問の議事録数の年推移



現へと質が問われるようになってきました。」という議事録内容が象徴的であるように、地方自治法の第一条の二において記載されている“住民の福祉”の増進を地方公共団体が図ることは、現代においては、住民のウェルビーイングの増進を目指すことにあたると捉えられ（高野2021）、客観的幸福度では測定されていない主観的ウェルビーイングを測定することは新しい時代に求められ、新たな課題発見を生み出す可能性を有しているものと考えられる。

### 3. ウェルビーイング研究における本稿の位置づけ

上述のように、福井県は全47都道府県幸福度ランキングにおいて全国一位と外部評価は高いが、重要性が増してきている県民自身の主観的評価である主観的ウェルビーイングの測定は、福井県としてこれまで実施していない。

については、本稿にて、主観的ウェルビーイングの測定を対象としたアプローチを行う。全47都道府県幸福度ランキングの分析枠組みも活用し、ウェルビーイング調査の調査分析枠組みを新たに設定し調査分析することで、これまで必ずしも把握することができなかったウェルビーイングの視点からの福井県の地域づくりの課題と可能性を考察することとする。

### Ⅲ. ウェルビーイング調査の分析枠組みの新規設定

福井県では、「福井県長期ビジョンの実現

に向けた県民アンケート」（以下、県民アンケート）と題し、福井県が実施する県民対象のアンケートとして、調査対象者数が最大のアンケート調査を、2019年、2020年、2021年と実施してきている。

その調査項目の1つとして、全47都道府県幸福度ランキングにて幸福を支える暮らしの5分野として設定されている「健康・文化・仕事・生活・教育」をフレームワークとし活用したものがある。1分野毎に5項目の主観指標を設定し、5分野25項目の調査指標群を設け、福井県の暮らしの「現在の充足度」と「将来の重要度」を5件法で尋ねる調査設計としている。具体的な回答方法は、「現在の充足度」は（1 充足されている／2 どちらかといえば充足されている／3 どちらともいえない／4 どちらかといえば充足されていない／5 充足されていない）の5件法、「将来の重要度」は（1 重要／2 どちらかといえば重要／3 どちらともいえない／4 どちらかといえば重要ではない／5 重要ではない）の5件法となっている。

今回の研究対象となる2022年実施の県民アンケートにおいても、上記の調査項目を活用するとともに、福井県民のウェルビーイングの状況を確認するために、総合的な主観的ウェルビーイング度を測定する設問（「現在、あなたはどの程度幸せですか？「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか？いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。」）を追加した。本設問は、総合的な主観的ウェルビーイング度を測定するための汎用的な設問であり、国のデジタル田園都市国家構想における地域幸福度を測定するウェルビーイング指標

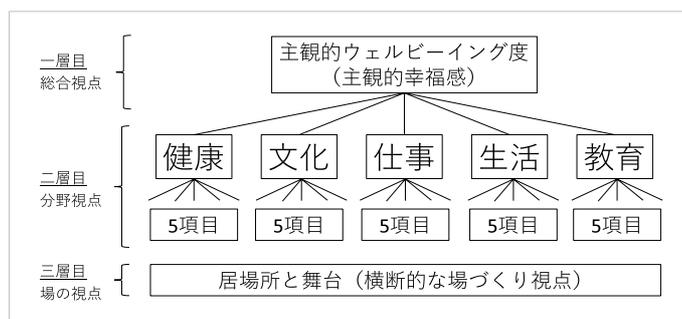
としても採用されているものである。

また、県民の主観的ウェルビーイング度の見える化に留まらず、今後の県政や地域づくりとしての施策の展開可能性を検討するために、ウェルビーイングを深める媒介目標である居場所と舞台の実感を測定する設問を追加した(図表4)。孤独・孤立の問題が叫ばれる昨今の日本社会において、居場所と舞台は、人と社会とがつながりを持ち、尊厳の保護と可能性のエンパワーメントを目指す上で欠かせない場である。そのような場や機会を各人

が持っているかどうかという実感は、これまでの客観指標では数値化できていない視点である。

これにより、一層目の総合視点として「主観的ウェルビーイング度」、二層目を分野視点として「健康・文化・仕事・生活・教育」の分野毎の充足度と期待度、そして三層目を分野横断的な場の視点として「居場所と舞台の実感」とする、福井県のウェルビーイング調査に関する新しい分析枠組みを設定した(図表3)。

図表3 ウェルビーイング調査の分析枠組み



図表4 ウェルビーイング調査の分析枠組みに基づく調査項目

枠組み	測定対象	設問項目	回答方法
一層目：総合視点	主観的ウェルビーイング度	現在、あなたはどの程度幸せですか。	とても不幸=0～とても幸せ=10 (11件法)
二層目：分野視点	【健康】	1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	「現在の充足度」 1 充足されている / 2 どちらかといえば充足されている / 3 どちらともいえない / 4 どちらかといえば充足されていない / 5 充足されていない (5件法)  「将来の重要度」 1 重要 / 2 どちらかといえば重要 / 3 どちらともいえない / 4 どちらかといえば重要ではない / 5 重要ではない (5件法)
		2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	
		3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	
		4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	
		5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	
	【文化】	6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	
		7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	
		8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	
		9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	
		10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	
	【仕事】	11.安定した産業基盤が維持されている	
		12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	
		13.働く場所と機会が確保されている	
		14.働きたいと思える魅力的な職場がある	
		15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	
	【生活】	16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	
		17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	
		18.住宅や公園などの生活環境が充実している	
		19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	
		20.空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	
	【教育】	21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	
		22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	
		23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	
		24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	
		25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	
三層目：場の視点	居場所	あなたの住んでいる地域に自分の居場所があると感じますか。	全くそう思わない=1～強く思う=5 (5件法)
	舞台	あなたの住んでいる地域に自己表現ができた / 活躍できる場があると感じますか。	全くそう思わない=1～強く思う=5 (5件法)

## IV. 福井県のウェルビーイング調査の結果

### 1. 調査概要

#### (1) 調査対象

福井県在住の満18歳以上の住民。住民基本台帳から福井県内市町の人口割にて無作為抽出した3,000人対象。

#### (2) 調査期間

2022年10月28日（金）から2022年11月18日（月）までの22日間。

#### (3) 調査方法

「福井県長期ビジョンの実現に向けた県民アンケート（2022年実施）」の調査票を郵送しての郵送調査。回答方法は、紙面回答かWEB回答かを各自で選択する形式。

図表5 有効回答者の性別割合

No	カテゴリ	件数	%
1	男性	588	45.6
2	女性	700	54.3
3	そのほか	1	0.1
	合計	1289	100.0

図表6 有効回答者の年代割合

No	カテゴリ	件数	%
1	10代	20	1.6
2	20代	72	5.6
3	30代	133	10.3
4	40代	213	16.5
5	50代	222	17.2
6	60代	276	21.4
7	70代以上	353	27.4
	合計	1289	100.0

#### (4) 回答状況

有効回答数1289人（回答率 43.0%）。なお、回答不備の場合、無回答として処理した。

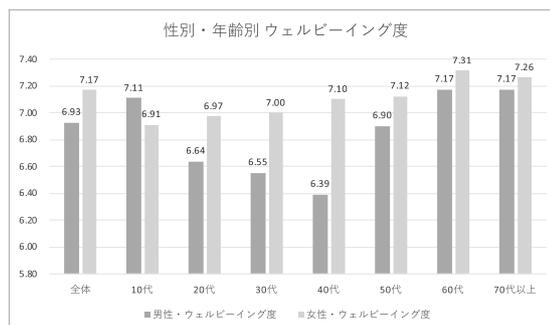
#### (5) 回答者属性（図表5, 図表6）

### 2. 調査結果

#### (1) <一層目：総合視点> 性別・年齢別の主観的ウェルビーイング度

性別・年齢別の主観的ウェルビーイング度（11件法）の測定の結果、性別では男性（平均6.93）よりも女性（平均7.17）のほうが主観的ウェルビーイング度が高く、また主観的ウェルビーイング度と年齢の関係では、大方U字カーブを描くような結果となった（図表7）。なお、性別「そのほか」・年齢「20代」と回答された方が1名おり、ウェルビーイング度は8であった。

図表7 性別・年齢別の主観的ウェルビーイング度

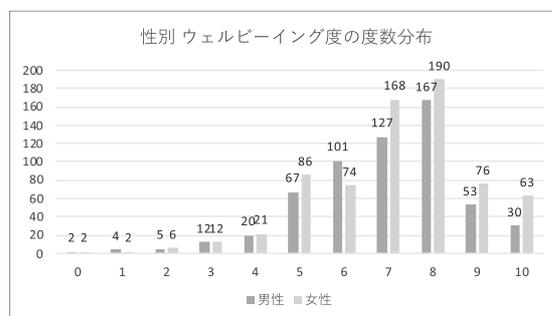


#### (2) <一層目：総合視点> 主観的ウェルビーイング度の分布

主観的ウェルビーイング度（11件法）の点数分布を見ると、8と回答する回答者（男性 167人、女性 190人、そのほか1名）が最も多く、その次に7（男性 127人、女性 168人）が続く結果となった（図表8）。日本の主観

的ウェルビーイング度の分布の特徴として、内閣府の幸福度に関する研究会報告（2011）では、中間となる5と比較的幸福感の高い7と8に山があるとされ、また4以下は少ないという特徴を有すると報告されている。今回の調査結果は5の山は高くないが、7と8に山があり、また4以下は少ないという特徴は同様に見られた。

図表8 性別毎の主観的ウェルビーイング度の度数分布



(3) <二層目：分野視点> 暮らしの5分野  
25項目の現在の充足度と将来の期待度  
暮らしの5分野である「健康・文化・仕事・

生活・教育」の各自の主観的評価による現在の充足度は、高い順に、①生活、②健康、③教育、④文化、⑤仕事。また、将来の期待度は、高い順に、①生活、②教育、③健康、④仕事、⑤文化となった。現在の充足度と将来の期待度ともに下位にあたる「文化」と「仕事」の分野は伸びしろとしての課題と捉えることができる。

また、詳細な25項目においても、下位に注目すると、現在の充足度においては「文化」分野では「【文化】10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」の項目が最下位の25位。「仕事」分野では、「【仕事】12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている」が23位、「【仕事】14.働きたいと思える魅力的な職場がある」が24位と、主観的な充足度が低かった。

将来の期待度は、「文化」分野では「【文化】7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる」(22位)、「【文化】9.伝統工

図表9 暮らしの5分野25項目の現在の充足度

現在の充足度の5分野	平均値	現在の充足度の25項目	平均値
生活全体	2.41	【生活】20.空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	1.82
健康全体	2.47	【生活】17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	2.02
教育全体	2.61	【健康】1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	2.17
文化全体	2.77	【教育】21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	2.30
仕事全体	3.05	【文化】8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	2.33
		【健康】4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	2.37
		【教育】22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	2.37
		【教育】25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	2.40
		【健康】3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	2.44
		【文化】9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	2.47
		【生活】16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	2.51
		【生活】18.住宅や公園などの生活環境が充実している	2.56
		【健康】2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	2.68
		【健康】5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	2.69
		【文化】7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	2.74
		【仕事】13.働く場所と機会が確保されている	2.82
		【教育】23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	2.88
		【文化】6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	2.91
		【仕事】15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	2.94
		【仕事】11.安定した産業基盤が維持されている	2.96
		【教育】24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	3.11
		【生活】19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	3.16
		【仕事】12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	3.23
		【仕事】14.働きたいと思える魅力的な職場がある	3.30
		【文化】10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	3.39

図表 10 暮らしの5分野25項目の将来の重要度

将来の重要度の5分野	平均値	将来の重要度の25項目	平均値
生活全体	1.58	【健康】 1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	1.26
教育全体	1.60	【生活】 17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	1.36
健康全体	1.67	【教育】 21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	1.39
仕事全体	1.69	【生活】 20.空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	1.43
文化全体	2.08	【教育】 25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	1.46
		【教育】 22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	1.54
		【生活】 19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	1.55
		【仕事】 15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	1.56
		【健康】 3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	1.61
		【仕事】 13.働く場所と機会が確保されている	1.61
		【教育】 23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	1.64
		【仕事】 14.働きたいと思える魅力的な職場がある	1.66
		【健康】 5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	1.68
		【仕事】 11.安定した産業基盤が維持されている	1.69
		【生活】 18.住宅や公園などの生活環境が充実している	1.74
		【文化】 8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	1.76
		【健康】 2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	1.83
		【生活】 16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	1.84
		【健康】 4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	1.95
		【仕事】 12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	1.95
		【教育】 24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	1.95
		【文化】 7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	1.99
		【文化】 9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	2.04
		【文化】 6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	2.28
		【文化】 10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	2.33

芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている」(23位), 「【文化】 6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる」(24位), 「【文化】 10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」(25位)と期待度が低かった。

(4) <一層目:総合視点と二層目:分野視点>

主観的ウェルビーイング度と暮らしの5分野25項目の現在の充足度との関係

主観的ウェルビーイング度と暮らしの5分野の現在の充足度との関係分析を解析ソフトSPSSを用いて行い、相関係数を算出した。5分野全てに相関関係が見られ、高い順に、①健康、②生活、③教育、④仕事、⑤文化となった。

加えて、主観的ウェルビーイング度と詳細な25項目との相関係数も同様に算出した。「【文化】 10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」のみ相関関係が見られず、そのほかの24項目には、主観的

ウェルビーイング度との相関関係が見られた。

特に、「【健康】 3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる」の相関係数が最も高かった。幸福感には国際文化差があり、北米には個人の能力の発現による個人達成志向の傾向があり、日本では他者との関係性を重んじる関係志向の傾向があるとされるが(内田2020)、福井県民の幸福感においても日本型の「関係志向」の方がより強く見られることがこの結果から推察される。

また、下位に注目すると、「【仕事】 11.安定した産業基盤が維持されている」(21位), 「【文化】 8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている」(22位), 「【文化】 9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている」(23位), 「【生活】 19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている」(24位), 「【文化】 10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」(25位)となった。

図表 11 主観的ウェルビーイング度と暮らしの5分野25項目の現在の充足度の相関関係

		主観的 ウェルビーイング度	健康	生活	教育	仕事	文化
主観的 ウェルビーイング度	Pearsonの相関係数	1	-.399**	-.289**	-.265**	-.259**	-.197**
	有意確率(両側)		<.001	<.001	<.001	<.001	<.001

\*\* 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

調査項目	主観的ウェルビーイング度との Pearsonの相関係数	有意確率 (両側)
主観的ウェルビーイング度	1	
【健康】3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	-.452**	<.001
【教育】21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	-.269**	<.001
【生活】16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	-.265**	<.001
【仕事】15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	-.252**	<.001
【仕事】14.働きたいと思える魅力的な職場がある	-.250**	<.001
【生活】17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	-.239**	<.001
【教育】22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	-.239**	<.001
【文化】7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	-.234**	<.001
【健康】4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	-.220**	<.001
【健康】2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	-.215**	<.001
【生活】20.空気が水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	-.208**	<.001
【健康】1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	-.206**	<.001
【健康】5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	-.205**	<.001
【仕事】13.働く場所と機会が確保されている	-.178**	<.001
【教育】23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	-.172**	<.001
【生活】18.住宅や公園などの生活環境が充実している	-.165**	<.001
【教育】25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	-.161**	<.001
【仕事】12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	-.155**	<.001
【教育】24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	-.155**	<.001
【文化】6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	-.141**	<.001
【仕事】11.安定した産業基盤が維持されている	-.134**	<.001
【文化】8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	-.126**	<.001
【文化】9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	-.121**	<.001
【生活】19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	-.111**	<.001
【文化】10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	-0.033	0.242

\*\* 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

\* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

(5) <一層目:総合視点と三層目:場の視点>  
主観的ウェルビーイング度と居場所と舞  
台の実感の関係

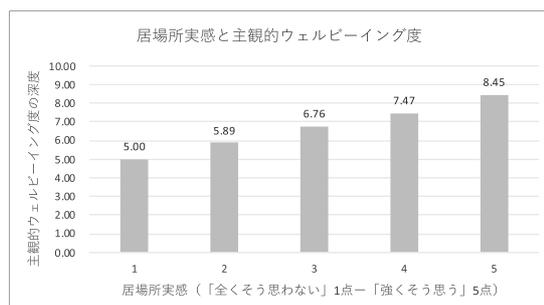
地域における居場所の実感度合い(5件法)と地域における舞台の実感度合い(5件法)の測定結果を主観的ウェルビーイング度(11件法)の測定結果とクロス分析したところ、正の相関関係が見られた。高野(2022)が福井県越前市で得られた越前市市民を対象とした調査結果と同様の結果であり、居場所の実感が高い方ほど主観的ウェルビーイング度が高く、また舞台の実感が高い方ほど主観的ウェルビーイング度が高い傾向であった。

また、主観的ウェルビーイング度と居場所と舞台の実感度合いの関係分析を解析ソフ

トSPSSを用いて相関係数を算出したところ、両者とも相関関係が見られた。

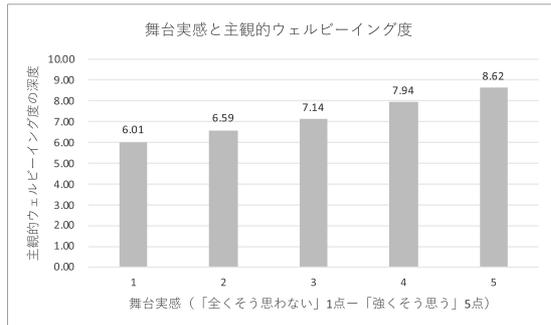
図表 12 主観的ウェルビーイング度と居場所の実感の関係

居場所実感 点数	主観的ウェルビーイング度 平均値	人数 (人)
1	5.00	40
2	5.89	133
3	6.76	540
4	7.47	410
5	8.45	166



図表 13 主観的ウェルビーイング度と舞台の実感の関係

舞台実感 点数	主観的ウェルビーイング度 平均値	人数 (人)
1	6.01	168
2	6.59	297
3	7.14	553
4	7.94	216
5	8.62	55



図表 14 主観的ウェルビーイング度と居場所と舞台の実感の相関関係

	主観的ウェルビーイング度との Pearsonの相関係数	有意確率 (両側)
主観的ウェルビーイング度	1	
居場所の実感	.448**	<.001
舞台の実感	.374**	<.001

\*\*相関係数は1%水準で有意(両側)です。

(6) <二層目:分野視点と三層目:場の視点>  
暮らしの5分野の現在の充足度と居場所  
と舞台の実感の関係

居場所と舞台の実感と暮らしの25項目の現在の充足度との関係分析を解析ソフトSPSSを用いて行い、相関係数を算出した(図表15, 図表16)。居場所の実感、舞台の実感ともに5分野25項目の全てに相関関係が見られ、加えて、居場所と舞台の25項目の相関係数の大きさの順位は異なる結果となった。居場所と舞台の実感異なるメカニズムをもって、暮らしの5分野25項目の充足度と関係しているものと考えられる。

V. 考察 —課題と可能性—

ウェルビーイングの視点からの福井県の地域づくりの課題を把握するため、ウェルビーイング調査の分析枠組みを新たに設定し、福井県が実施する初めてのウェルビーイング調

図表 15 居場所の実感と暮らしの5分野25項目の現在の充足度の相関関係

調査項目	居場所の実感との Pearsonの相関係数	有意確率(両側)
居場所の実感	1	
【健康】 3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	-.382**	<.001
【生活】 16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	-.286**	<.001
【教育】 22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	-.259**	<.001
【教育】 21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	-.243**	<.001
【健康】 2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	-.220**	<.001
【仕事】 14.働きたいと思える魅力的な職場がある	-.214**	<.001
【生活】 17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	-.214**	<.001
【文化】 7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	-.211**	<.001
【仕事】 15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	-.202**	<.001
【生活】 20.空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	-.190**	<.001
【教育】 23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	-.189**	<.001
【健康】 5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	-.183**	<.001
【生活】 19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	-.179**	<.001
【教育】 24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	-.176**	<.001
【健康】 4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	-.171**	<.001
【生活】 18.住宅や公園などの生活環境が充実している	-.170**	<.001
【健康】 1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	-.168**	<.001
【教育】 25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	-.160**	<.001
【文化】 8.美しいまちなみや豊かな里山里湖が守られている	-.152**	<.001
【文化】 6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	-.150**	<.001
【仕事】 13.働く場所と機会が確保されている	-.135**	<.001
【文化】 9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	-.129**	<.001
【仕事】 12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	-.127**	<.001
【仕事】 11.安定した産業基盤が維持されている	-.111**	<.001
【文化】 10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	-.056*	0.044

\*\*相関係数は1%水準で有意(両側)です。

\*相関係数は5%水準で有意(両側)です。

図表 16 舞台の実感と暮らしの5分野25項目の現在の充足度の相関関係

調査項目	舞台の実感との Pearson の相関係数	有意確率(両側)
舞台の実感	1	
【健康】 3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	-0.360**	<.001
【生活】 16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	-0.305**	<.001
【健康】 2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	-0.297**	<.001
【仕事】 14.働きたいと思える魅力的な職場がある	-0.278**	<.001
【教育】 22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	-0.274**	<.001
【教育】 21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	-0.273**	<.001
【教育】 24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	-0.260**	<.001
【生活】 19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	-0.252**	<.001
【文化】 7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	-0.237**	<.001
【仕事】 15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	-0.236**	<.001
【生活】 18.住宅や公園などの生活環境が充実している	-0.230**	<.001
【教育】 23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	-0.226**	<.001
【健康】 4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	-0.214**	<.001
【仕事】 12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	-0.204**	<.001
【教育】 25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	-0.203**	<.001
【文化】 6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	-0.187**	<.001
【健康】 5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	-0.184**	<.001
【健康】 1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	-0.167**	<.001
【生活】 17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	-0.167**	<.001
【生活】 20.空気が水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	-0.161**	<.001
【文化】 8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	-0.153**	<.001
【仕事】 11.安定した産業基盤が維持されている	-0.152**	<.001
【仕事】 13.働く場所と機会が確保されている	-0.142**	<.001
【文化】 9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	-0.132**	<.001
【文化】 10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	-0.117**	<.001

\*\* 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

\* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

査を行うことができた。

人々の主観に基づく回答結果から、「主観的ウェルビーイング度と暮らしの5分野の充足度の相関関係」と「5分野の現在の充足度と将来の期待度」を分析すると、「仕事」と「文化」の分野は、主観的ウェルビーイング度との相関関係、現在の充足度、将来の期待度の全てにおいて相対的に低い結果となり、課題となる分野であることが分かった。

「仕事」分野は、主観的ウェルビーイング度との相関関係が相対的に低く、また、現在の充足度においては「【仕事】12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている」は全体で23番目、「【仕事】14.働きたいと思える魅力的な職場がある」は24番目と満足度が低い項目であることがわかった。

また、「文化」分野は、主観的ウェルビーイング度との相関関係が5分野の中で最も低かった。「【文化】10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」の

項目は25項目中において唯一相関関係が見られない項目であった。また、他の文化分野の項目も「【文化】9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている」は23位/25項目、「【文化】8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている」は22位/25項目、「【文化】6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる」は20位/25項目と、最下位6項目に文化分野が4つ含まれる結果となった。

この結果を外部評価となる客観指標に基づく都道府県別幸福度ランキングと比較し考察すると、「仕事」分野は、福井県はランキングでは6回連続の全国1位であり、雇用領域における客観指標となる若者完全失業率・正規雇用者率・高齢者有業率・インターシブ実施率・大卒者進路未定者率は軒並み全国トップクラスであり、この点で課題点は見られない。しかし、今回のように主観的ウェルビーイング度をもとに主観的な観点で県民自

身の回答結果から分析を行うと、雇用状況は数値としては安定していても、“魅力的な職場”や“チャレンジできる環境”といった質的な職場環境において、課題点を有していることが明らかになった。例えば、国際世論調査Gallup World Pollでは、働くことに関するウェルビーイングの調査として、日々の仕事に喜びや楽しさを感じるか（体験）、自分の仕事の人々の生活をより良くすることにつながっているか（評価）、自分らしく働ける選択肢があり自分で選べられているか（自己決定）などを測定している。このように、客観データに基づいた雇用状況ばかりでなく、働く場における仕事の喜びややりがい、働き方の自己決定度などの質的な環境も併せて測定把握し改善していくことが重要であると考え。

また、もう一つの「文化」分野においては、客観指標に基づく都道府県別幸福度ランキングでも低く、主観的判断に基づく今回の評価においても現在の充足度及び将来の重要度、加えて主観的ウェルビーイングとの相関関係が相対的に低いという結果となり、文化分野は客観と主観の両方の観点から福井県の課題であることが確認できた。なお、文化芸術が健康やウェルビーイングに好影響があることはこれまでも報告されており、WHOでは文化芸術への支援の重要性を呼びかけている（Fancourt, Dら2019）。また、日本の文化庁もウェルビーイングと文化芸術活動の関連を調査しており、文化芸術に触れることは、人々の生きがいやつながりなどのウェルビーイングと一定の関係があるとしている（文化庁2022）。このように、文化芸術には、社会包摂により様々な人々との接点をつくり、ま

た多彩な方法を通じて自己表現を可能とすることで、人々の暮らしのウェルビーイングを向上させる可能性を有しているため、文化芸術を含む「文化」分野は福井県の地域づくりにとって課題であり同時に今後の地域づくりの伸びしろであると捉えることが重要であると考え。

このように、客観的幸福度と、主観的ウェルビーイング度をはじめとする主観的な要因に関する調査結果とを比較分析することで、これまで把握されてこなかった課題点の抽出や裏打ちとなるデータの補強が可能となったと考える。

また、主観的ウェルビーイング度と居場所と舞台の実感に関しては、正の相関関係が見られた。県民が心身の健康と社会のつながりを実感しよりよく生きるために、居場所と舞台という二つの場の重要性を確認することができた。今回明らかになった「仕事」分野と「文化」分野の課題に対しても、居場所と舞台という場づくりは、「仕事」分野では、働く環境・職場において、ほっとできる居場所や自分らしく活躍できる舞台、また「文化」分野においては、文化芸術活動を通じてともに居合わせる居場所や自己表現ができる舞台と、効果が期待される具体的なアプローチである。居場所と舞台という2つの場の概念は、ウェルビーイング社会に向けた媒介目標としての展開可能性を有していると考え。

最後に、本稿の限界性としては、主観的ウェルビーイング度と暮らしの5分野および居場所と舞台との相関関係を明らかにすることはできたが、因果関係を得られたものではないことが挙げられる。また、調査対象が県民を無作為抽出したものであるため、年代が高い

方の回答数ほど多く、若年層の回答は限定的であったことも挙げられる。今後、地域づくりの大きな課題である地域の人口減少等の対策を考える上では、若年層、特に若年女性の調査結果が重要である。

更なる詳細な分析のために、継続的なウェルビーイング調査の実施、ウェルビーイングに関する調査項目の追加、仕事分野や文化分野などの特定分野に特化した詳細調査の実施、特定年代を対象としたパネル調査の実施などが必要であることを記し、本稿を締めくくることとしたい。

#### 【参考文献】

- ・内田由紀子 (2020) 『これからの幸福について—文化的幸福感のすすめ』新曜社。
- ・大石繁宏 (2009) 『幸せを科学する—心理学からわかったこと』新曜社。
- ・鈴木 孝弘, 田辺 和俊 (2016) 「幸福度の都道府県間格差の統計分析」『東洋大学紀要. 自然科学篇』 Vol.60.
- ・高野翔 (2021) 「ウェルビーイングの概念の自治体政策への適用可能性と課題に関する考察—福井県永平寺町におけるウェルビーイング調査をもとに—」『ふくい地域経済研究』 Vol.33.
- ・高野翔 (2022) 「ウェルビーイング自治体政策における居場所と舞台の場の概念の活用可能性の考察—福井県越前市におけるウェルビーイング調査をもとに—」『ふくい地域経済研究』 Vol.35.
- ・寺島実郎, 一般財団法人日本総合研究所 (2012) 『日本でいちばんいい県 都道府県幸福度ランキング』東洋経済新報社。
- ・寺島実郎, 一般財団法人日本総合研究所 (2014) 『全47都道府県幸福度ランキング 2014年版』東洋経済新報社。
- ・寺島実郎, 一般財団法人日本総合研究所 (2016) 『全47都道府県幸福度ランキング 2016年版』東洋経済新報社。
- ・寺島実郎, 一般財団法人日本総合研究所 (2018) 『全47都道府県幸福度ランキング 2018年版』東洋経済新報社。
- ・寺島実郎, 一般財団法人日本総合研究所 (2020) 『全47都道府県幸福度ランキング 2020年版』東洋経済新報社。
- ・寺島実郎, 一般財団法人日本総合研究所 (2022) 『全47都道府県幸福度ランキング 2022年版』東洋経済新報社。
- ・内閣府 (2011) 「幸福度に関する研究会報告—幸福度指標試案—」 [https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/pdf/koufukudosian\\_sono2.pdf](https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/pdf/koufukudosian_sono2.pdf)
- ・文化庁 (2022) 「文化に関する世論調査—ウェルビーイングと文化芸術活動の関連—報告書」 [https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/pdf/93714701\\_02.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/93714701_02.pdf)
- ・細川善弘, 須藤一磨 (2020) 「ふくい×AI: 未来の幸せアクションリサーチ (特別小特集 AI時代の持続可能な地方分散社会を目指して)」『電子情報通信学会誌』 Vol.103 No.10.
- ・森田修康 (2013) 「指標を基点とした自治体経営の方向と課題」『経営行動研究年報』第 22 号, 経営行動研究会編。
- ・Diener, E. (1984). Subjective well-being. *Psychological Bulletin*, 95 (3), 542-575.
- ・Fancourt, D., & Finn, S. (2019). What is the evidence on the role of the arts

in improving health and well-being? A scoping review.